

先週の礼拝メッセージ(2024年1月28日) ベン牧師

「みことばの光」詩篇 119:105-112

「あなたの言葉は私の足の灯、私の道の光。」(105節)

足の灯とは、次の一步をどの方向に踏み出せば良いかを知らせる大切なものです。道の光とは、行く前方を照らすものです。私たちの人生にとっても、一步踏み出す、また将来を導くためにはなくてはならないものでしょう。105節だけを見ると、その将来は光り輝く前途洋々なものに聞こえるかもしれませんが、しかし、読み進んでいくと作者が置かれている状況がわかってきます。

「私はひどく苦しんできました。」(107)

「私は常に危険にさらされています。」(109)

「悪しき者どもが私に罾を仕掛けました。」(110)

作者は非常に困難な中にいるのです。しかも、自分に対して敵意を抱いている人たちまでいるのです。そんな中で彼は自分の思い描いた道を進めないでいるのです。

私たちの人生においても、先の見えない状況に置かれることは少なからずあるでしょう。また、前に進めたとしても、願い通りの結果ではないことも起こってきます。一体誰が、困難な状況の中の私を支えてくれるのでしょうか。詩篇の作者はこう歌っています。

「主よ、あなたの言葉どおりに私を生かしてください」(107)

「しかし、あなたの律法を忘れませんでした。」(109)

「しかし、あなたの諭しから迷い出ませんでした。」(110)

「とこしえにあなたの定めを受け継ぎます。それは私の心の喜びです。」(111)

「私はあなたの掟を行うことに心を傾けます。とこしえに、終わりまで。」(112)

詩篇 119 篇は、ヘブル語のいろは歌となっていて、各 8 節ごとに作者が異なっていますが、全体は神の言葉を讃えている詩篇です。そしてそのみことばとは、律法を指しています。律法とは、決まり、掟のことです。普通ならそのようなものは、喜びとか心傾けるものとはならないでしょう。しかし作者がそう思えるのは、まさに 105 節、神の言葉が次の一步を踏み出す灯火となり、将来を照らす光となると知っているからです。

彼を取り巻く状況は真っ暗闇のような状況でした。どこに一步を踏み出せば良いかわからない、それを間違えば命の危険さえあるというのです。

そしてその一步は、ただ安全であるとか、将来に希望が持てるかというものではなく、その足の灯、道の光は、私たちが神のものに導いてくれるものなのです。すべての解決はそこにしかないことを作者は承知していました。周りが見えない状況だからこそ、そこに光があるということがどれほどの喜びと慰めになるでしょう。みことばによって神に近づくことができる喜びなのです。

「私たちが真実でなくても、この方は常に真実であられる。」(2テモテ 2:13)

神様は、聖書の言葉を通して私たちに約束してくださっています。神様は真実です。そして神の言葉も真実です。どんなに私たちが神様の背を向けるようなことがあっても、神様は、

「私はとこしえの愛をもってあなたを愛し、慈しみを注いだ。」(エリミヤ 31:3)

とおっしゃってくださるのです。私たちがみことばによって、神様をより深く知っていく時、私たちの心には喜びが満ちるのです。なぜなら、聖霊がそこに働いてくださるからです。

「あなたの言葉は私の足の灯、私の道の光。」(105節)

まさにみことばによって、私たちは神の愛と真実さを知り、神ご自身に近づく者とされるのです。

